

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホーム はなまる		
所在地 (電話番号)	〒 800-0222 福岡県北九州市小倉南区中曽根一丁目4-10 (電話) 093--475-9800		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴5-27		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年 3月31日

## 【情報提供票より】(平成22年3月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30 人	常勤(専任 18人 兼務 2人) 非常勤 10人 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	築 6年
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 ~ 45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,333 円	

### (4) 利用者の概要(22年3月9日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	74歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野クリニック ・ 慈恵曽根病院 ・ 三好歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

買い物や交通の便が良い、市街地のバス通りに、グループホーム「はなまる」がある。「地域で仲良く、自信と笑顔で、ホットでアットホームなケア」を理念の柱として掲げ、職員は利用者の目線に立って、個々の意向や、能力に合わせ、自立支援に向けた展開をしている。ホーム長、職員間のチームワークは抜群で、利用者や家族からの信頼は深いものがある。ホーム長と職員は、高齢者介護の地域の拠点となるように、日々の介護サービスの質の向上を目指し、工夫している。また、提携医による毎月2回の定期的な往診や、看護師2名が常勤し、利用者の体調を把握し、AEDを設置して、利用者の健康管理は万全である。中学生の体験学習や民生委員、ボランティアの協力を得て、神社や溝掃除に参加したり、AEDを地域住民にも開放して、交流の輪を広げている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、「運営推進会議を活かした取組」「地域の協力を得て、避難訓練の実施」の2件であるが、ホーム長、職員が、改善目標計画を設定し、努力した結果、改善出来ている。今回は「家族の心情を察して、家族だけで話し合える会を設立し、家族の共通の悩みや心配事、ホームに対する要望等を話し合える場の提供」等の工夫が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はホーム長が、中心になり、職員の意見を聴きながら、作成している。ホーム長は、外部評価、自己評価の意義と活用を、職員全員に理解してもらい、一人ひとりが自己評価作成に取り組み、評価結果についても職員に回覧し、改善に向けて努力していくことを、検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、家族、地域代表、有識者、行政職員、ホーム関係者が参加し、2ヶ月毎、定期的に実施され、ホームの近況報告や行事、外部評価の結果報告、問題点等を報告し、参加者からは、質問や要望、地域や行政情報等、活発な意見が出て、次回までの宿題や、すぐ反映出来る事案に対する取り組み方が工夫され、充実した会議になっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱を玄関に設置し、苦情相談窓口を掲示し、家族の意見が出やすいようにしているが、ほとんど利用がない。ホーム行事や、家族来訪時、運営推進会議や電話などで、意見・苦情・不安などを聴きとり、出来ることから取り組み、ホーム運営に反映させている。また、「はなまるだより」を毎月発行し、家族の間で評判になり、家族間で回し読みするほど楽しいホーム便りである。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の清掃活動、夏祭り、神社の注連縄づくり等に積極的に参加している。近所の方が利用者や将棋を指しに来られたり、中学生の体験学習の受け入れ等、少しずつ地域との関わりが、広がっている。AED(自動体外式除細動器)を設置し、全職員が使用できるので、地域に開放し、いつでも使用出来る環境を整え、信頼と交流の輪を、深めていけるように工夫している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着」を理念に取り入れるために運営推進会議の中で話し合い、利用者の意見をもとに、「地域で仲良く、自信と笑顔」という理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と、リビングに理念を掲示し、利用者、職員、ホームを訪れる人の目につく様にしている。また、ミーティングやカンファレンス時に理念を確認し合い、日々のケアに活かしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、清掃活動に参加したり、地域の方と合同で消防訓練を行うなど、交流は密である。また、近所の方が将棋を指しに来られたり、隣家からお野菜の差し入れがあったり、中学生の体験学習の受け入れ等は、利用者の大きな楽しみとなっている。AED(自動体外式除細動器)を設置し、「お年寄り110番」の看板を掲げ、地域に開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を活かして、ホーム長、管理者、職員は具体的な改善に取り組み、前回の改善点は二件とも、改善されている。今回、自己評価はホーム長が、職員の意見を聴きながら作成した。		今後は、職員一人ひとりが自己評価作成に直接関わることで、改善に向けての意識の向上に繋げることが望ましい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域代表、有識者、行政職員、ホーム関係者が参加し、2ヶ月毎に、定期的実施され、ホームの近況や行事、外部評価の結果を報告し、具体的な取り組み方を話し合ったり、参加者から質問や要望、情報提供など、活発な意見が出て、充実した会議になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政から、ターミナルケアの実践報告会開催の依頼を受けたり、市主催の研修会への参加など、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。また、介護相談員の受け入れもやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、内部伝達研修を行い、パンフレット、資料などを準備し、制度への理解を深め、必要な方がいつでも活用できるよう支援している。現在、「日常生活自立支援事業」を活用している利用者がいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「はなまるだより」は、絵の得意な管理者がイラストを担当し写真とイラストで利用者の暮らしぶりのほか、ヒアリング報告や身体拘束についてなど、テーマを変えての充実した内容となっていて家族も心待ちにするホームだよりとなっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、苦情相談窓口を掲示しているが、意見、苦情などはなかなか出ない。家族との懇親会を開き、意見、要望などを聴き取る努力をしている。また、家族に対して、定期的にアンケートを行うことを検討中である。	○	利用者を、預かってもらっているという、家族の心情を察して、家族だけで悩みや不安を話し合える家族会の立ち上げに向けて、家族交流会を通じて家族の輪を、広げていくなどの工夫が望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、利用者へのダメージは少ない。また、職員の休みの希望は100パーセント聞き入れるなど職員の異動や離職を最小限に抑えるための努力をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢の制限はない。また、事業所で働く職員についても休憩室、ロッカーを整備し、4月から、休憩時間をとれるよう検討するなど、職員が、生き生きと働けるよう支援している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	利用者の人権を尊重するために、職員は人権に関する研修に参加し、内部研修に繋げ、人権に対する意識づけを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は、職員が段階に応じて研修を受けることを勧め、外部の研修を受けた職員は事業所で伝達研修を行い、情報、知識を共有している。また、新人職員に対しては、ベテラン職員と一緒に、働きながら学ぶことを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、勉強会を行ったり、職員の交換を行うなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の利用者、家族にはホームを見学して頂き、ホームの雰囲気を感じてもらい、安心、納得した上での入居に繋げている。また、入居後も家族の協力を得ながら、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時に、利用者と職員が雑巾を持ち、一緒に拭き掃除をしている姿が見られ、職員からは、「利用者さんに会いたくて、楽しみに仕事に来る。」という言葉が聞かれ、利用者と職員は一緒に過ごしながら共に支え合う関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握するために、出来るだけ利用者の視点に立って寄り添うように努めている。意向の表出の難しくなった場合は、今までの、その方との付き合い、経験からの気付きと、家族等からの聴き取り、過去の履歴等から把握し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングやケアカンファレンスで、利用者、家族の要望をもとに、医師、ケアマネージャー、職員で話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、利用者、家族の希望を確認しながら6ヶ月毎に行っている。現在、3ヶ月毎の見直しを検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外に「お年寄り110番」というAED(自動体外式除細動器)の設置を知らせる看板を掲げ、地域に広く知らせている。また、訪問理・美容、病院の送迎、認知症専門医の受診、買物、外出など、利用者、家族の要望に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診支援を行っている。また、月2回の提携医の往診と看護師が常勤していることで、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望を聞きながら、重度化や終末期に向けて関係者で話し合い、職員全員で看取りの指針を周知し、看取りの事例がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉掛けや対応について研修、会議などで繰り返し話し合っている。個人情報や記録の取り扱いについても充分配慮している。		声掛けが大きい職員がいるが、ムードメーカーとしての存在も大きいので、今後の課題として取り組んでいくことが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をたっぷり取ってもらうなど、利用者一人ひとりのペースを大切に、個々の希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かしながら、野菜の皮むき、もやしの根取りなど、食事前の準備を利用者と職員が行い、同じテーブルで会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階と2階の入浴日をずらし、利用者の希望の時間に毎日でも入浴できるように支援している。入浴拒否の利用者には、タイミングなどを変えたりしながら、無理のない範囲で、入浴が楽しいものとなるよう声掛けをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの状態、生活暦を活かし、掃除、食事の下ごしらえ、お盆、食器拭きなどの役割を分担し、将棋、花札なども楽しめるよう支援している。また、恒例となっている、近所のお寿司やさんの出張による「寿司パーティ」や、4月に予定されている「擬似結婚式」などのレクリエーションは、利用者の、楽しみのひとつとなっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に出来るだけ沿って、散歩、買物など、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は、刃物の保管場所以外は施錠していない。玄関については、ホームの目の前が交通量の多い道路であることから、家族とも話し合い、安全面を考慮して、施錠する場合もある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、消防署と地域住民の参加、協力を得て、年4回夜間を想定した訓練も含め行っている。また、AED(自動体外式除細動器)を用いた訓練も同時に実施している。非常時に備え、飲料水、非常食などの備蓄も行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分量をそれぞれの生活日誌に記録し、職員は、利用者の健康状態を把握し、一人ひとりに応じた支援に繋げている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ホーム入り口の花壇には、季節の花が植えられ来訪者を気持ちよく迎えてくれる。ホーム内のリビングは床暖房で足元が暖かく、壁には手作りの貼り絵、写真が飾られ、季節感やホームでの暮らしぶりが伺える。ピアノやソファがゆったりと置かれ、寛げる共用空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具、好みの小物を持ち込み、居心地良く、安心して過ごせる様工夫がされている。		